



# 11 お茶の間カフェ パラッショ ヴェルデシェーナ

牛久市

サロン開設年月日	平成21年7月1日
開催日及び開催頻度	毎週水曜日に開催（月4回開催）
開催拠点	牛久市 マンション パラッショ ヴェルデシェーナ ゲストルーム
代表者氏名	菅沢 純
代表者電話番号	☎ 029-873-2323
1回の参加人数	平均10人
1回の運営スタッフ数	平均 2人
参加費	無料



### 年間予算額及び主な財源

年間予算額	48,000円
(内訳)助成金	48,000円

### サロンのテーマ・目的

- お茶の間カフェは「井戸端会議」や「向こう三軒両隣」の良さを取り入れ、マンションの人達が楽しく集い、助け合う環境づくりの場所。
- お茶の間カフェで楽しい会話をとおして、マンションの人達がやりたい事を決めていきます（趣味の集まり、季節の行事、生活に密着した情報交換（市との交流等）、緊急・災害時の助け合い等）。

## 活動の概要

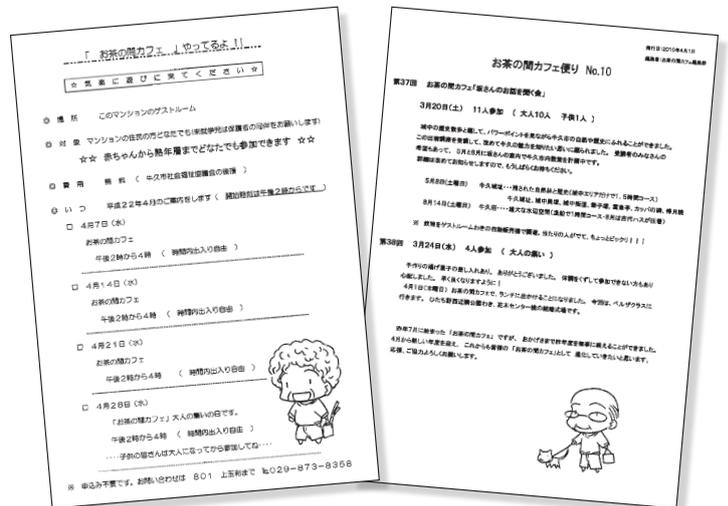
- お茶の間カフェは、小地域の人達が助け合う環境づくりに取り組んでいる「市民がつくるたまり場グループ（5人）」が立ち上げた第一号のたまり場です。
- グループの取り組み: ①マンション及び空家を利用したモデルたまり場づくり ②モデルたまり場づくりの成果を踏まえ順次拡大しネットワーク化。

## サロンの特徴

- お茶の間カフェは、「市民がつくるたまり場グループ（たまり場づくり仕掛人グループ）」が立ち上げた第一号たまり場（今後、さらに拡大）。
- お茶の間カフェは、小地域の人達が楽しく 集い、助け合う環境づくりのたまり場。
- 「お茶の間カフェ」で楽しい会話は住民の希望・やりたい事を実現。  
趣味の集まり、住民同士での楽しみ、各種助け合い、行政との交流 等。

## 身近な人材や施設など地域の社会資源の活用

- 市民がつくるたまり場グループは牛久市社会福祉協議会「市民参加による住みよいまちづくり」をテーマとした団塊世代協働講座の受講者のグループ。
- 経験豊富な団塊世代に活動への参加を求め、グループの充実をはかる。
- 牛久市、牛久市社会福祉協議会との協働による取り組み。





## サロン実施にあたって苦労したこと

### 人集めに関して

- お茶の間カフェでの集まりの中で、マンション住民の人達のやりたいことを決め、計画をたて、実行しています。平成21年度の主なものは次のとおり。①メダカの里親探し（7月）②親子で楽しむ英会話（7～8月）③牛久市施設、名所見物（11月）④安くておいしいランチ探し隊（12月）④ヴァイオリンコンサート（1月）⑤牛久の歴史と自然景観を聞く集い（3月）
- “お茶の間カフェ”でのたのしい集いの模様及びイベントをマンション人達に周知すべく「お茶の間カフェだより」を毎月発行しています。

### 活動拠点に関して

- “お茶の間カフェ パラッショ ヴェルデシェーナ”は、当マンション管理組合に、“ゲストルームを活用したたまり場づくり”を「市民がつくるたまり場グループたまりん」が提案をし、これが承認され、21年7月から運営されています。
- 21年度もマンション管理組合の新役員の方々に、「お茶の間カフェ」運営状況を報告する予定です。

### 財源に関して

- “お茶の間カフェ パラッショ ヴェルデシェーナ”の開設にあたっては、牛久市社会福祉協議会が実施している「ふれあいサロン普及事業」にふれあいサロン助成金の申請を行い、この助成金をもとに、運営をしています。

## サロン開催の効果

- 開設時の“お茶の間カフェ”は「市民がつくるたまり場グループ」の指導で開催されていましたが、回を重ねるなかで、住民の方が、積極的に運営に参加してくれています。
- マンションの子供さんがお母さん達と積極的に参加し、お手玉、オハジキ、将棋等で住民の皆さんと楽しく遊んでいるなかで、子ども達から「バザー」「夏まつり」等の開催の提案が出ています。
- マンションのなかで、住民の方々の挨拶が大変多くなりました。
- 折り込みチラシで作った卓上ゴミ箱を老人介護施設に寄付しています。

## サロン開催の課題、今後のサロン活動への想い

- 今後の展開として、マンションのほか、空きビル、空家等を活用した“たまり場づくり”を計画していますが、運営費が大きな課題です。
- 「市民がつくるたまり場グループ」（仕掛け人）のスタッフの充実（各分野で活躍している人達の参加）
- 「市民がつくるたまり場グループたまりん」は毎週、火曜日に社会福祉協議会に集まり、“お茶の間カフェの運営”、“たまり場づくりの今後の展開とネットワーク化”等を熱き気持ちで、話し合っています。



### 委員からの一言コメント

牛久市の中でも新しく開発された「ひたち野牛久」地区。高層マンションが立ち並び、地元住民以外の方が多い。昨今、マンションの急増などによって指摘されているコミュニティ機能の低下。独居高齢者の孤独死や近隣互助の欠如。そのような状況を何とかしたいと立ち上がった「お茶の間カフェ・パラッショ ヴェルデシェーナ」は、マンションの名前を持つサロンです。当マンションの住民のみを対象とした、マンションコミュニティの形成を目的としています。時に放課後の子供たちのたまり場として、時に趣味のたまり場として、多面的な要素を持っているのが特徴。課題は維持費。サロン共通の課題でもありますが、今後の展開を期待します。（能本守康 委員）